

# 化学教育 徒然草



## 教育の需要と供給

KYUSHIN Soichiro

久新莊一郎

群馬大学大学院理工学府 教授  
平成 29~30 年度日本化学会 副会長



巻頭言

我が国の教育は、教わった知識を理解して覚え、それを正確かつ短時間に試験で再現することが基本になっている。これは明治維新以降、海外の進んだ知識を吸収する必要（需要）があり、それに対応する教育システムが構築（供給）されてきたためである。この教育システムは150年間維持されてきたが、現在の教育における需要を満たしているのだろうか。知識を増やすことは必要であるが、微に入り細に入った知識の吸収は必ずしも必要と思えず、むしろそれ以上に必要な能力はいろいろある。今後の教育や人材育成で重要と思われるポイントを考えてみたい。

優れた人材に要求される能力に、複雑な事実を整理し、客観的かつ公平に理解していくという能力がある。それに基づいて的確な判断をすることは企業活動や研究開発など、文系理系を問わず、あらゆる分野で必要である。しかし、これはそう簡単ではない。例えば研究における論争を見ても、データや証拠による議論以前に、こうなるはずだという強い思い込みが対立の出発点になっていることがある。また、我々の日常生活でも先入観や強い思い込みによる判断ミスを目にすることもある。データや証拠を集めて自分の頭の中で整理し、必要に応じて他者の考えを聞きながら的確に判断するのは、当たり前のように見えて、難易度の高い能力である。

もう1つの能力に、未知の（あるいは未曾有の）問題がおきたときの的確な対応をするための能力、アイデア、チャレンジ精神がある。これは教わったことを再現する能力を超えた高度な能力である。人口減や高齢化など人間社会の種々の問題に対して、あるいは研究開発が停滞したり、企業などの組織の経営や運営が思わしくないときに、どのようなアイデアや対応策を打ち出すかは重要である。これができないと、効果が期待できそうもない対応をとったり、やらされたりすることになる。

このような能力は点数などの指標をつけることが難しいし、社会経験を積みながら磨いていく部分もある。しかし周りを見回してみると、子どものときからの育ち方、環境、教育が大きな影響を与えている場合も多い。社会の閉塞感が話題になっているが、150年たった今、一旦立ち止まり、今後の教育の需要と供給について考える時期になっていると思う。

[連絡先]

376-8515 群馬県桐生市天神町 1-5-1 (勤務先)